

在宅医療推進センターだより

小出病院内 TEL 025-793-7305 FAX 025-793-7244

在宅医療推進センターの紹介 【何でも聞ける関係】を目指して！

<スタッフ>

センター長(小出病院地域連携部長 医師)	林 純一
コーディネーター(保健師)	佐藤 洋子
コーディネーター(保健師)	北島 正子

所在地	〒946-0001 魚沼市日渡新田 34 番地 魚沼市立小出病院内		
電話番号	025-793-7305	F a x 番号	025-793-7244
E-mail	zaitaku@uonuma-medical.jp (佐藤) zaitaku1@uonuma-medical.jp(北島)		
相談受付時間	月～金曜日 8時30分～16時		

在宅医療・介護関係者の相談に応じます

医療と介護の相互理解や職種間の意思疎通が困難な場合など、多職種多機関が抱える課題に対して、より良い方向で検討できるようサポートします。

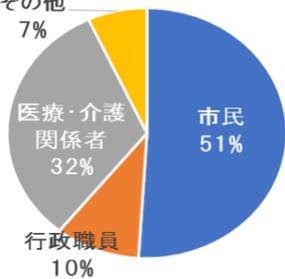
小さなことから
どうぞご利用
ください

在宅医療・介護市民講座を開催しました

●日時：12月1日(土) 14時～16時 ●場所：魚沼市地域振興センター

●出席者：163名

参加者の内訳



●報告「魚沼市の在宅医療について」
中島脳外科内科医院 中島 拓院長

●講演「人生の最期までのぞむ暮らしを続けることができる地域をめざして」

座長：魚沼市立小出病院 鈴木善幸先生
講師：医療法人ゆうの森 永井康徳理事長

●アンケート結果から …市民の声を中心に

人生の最期の話、あまり悲しくなかった

事前指示から
人生会議へ

在宅看取りは家族が大変だし迷惑がかかると思い込んでいたが、考えが変わった。在宅医療で自然死、とてもいい

人は最後まで食べるのですね

やりたいように、後悔しないように、介護が必要になったら少しだけ迷惑をかけて、自分らしく生きられて、最後を迎えられたら幸福

亡くなる時家族が見ていなくても良いことに驚いた。でも安心した

枯れるように死んでいった方が、本人が楽とは知りませんでした

多死社会で求められる医療

治し続けた末の死でなく、治せない病や死・老化にしっかりと向き合い、最期までどうより良く生きるか、どうすれば患者にとっての満足度が最高になるかを考えていく医療への変革が必要。

独居の方を自宅で看取るための3つの条件

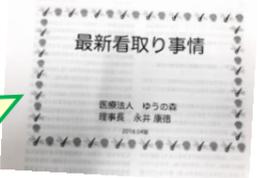
- ✓ 本人も家族も自宅での看取りを望んでいること
- ✓ 点滴や胃瘻をせずに自然な看取りを行うこと (関係しているすべての人がしっかりと死に向き合っていること)
- ✓ 関わる皆が、「亡くなる瞬間を誰かがみてなくてよい」ことを理解していること



息を引きとる瞬間に立ち会えなくてもいい

誰もいない時に息が止まったら、家族は罪悪感を抱きがち。でも家族が気づかないということは、それだけ穏やかに逝かれたということ。自分を責めないで。

講師の配布資料をご希望の方はご用命ください。部数あります。



入退院支援連携について検討しています

入退院支援は、切れ目ない在宅医療・介護の提供体制の構築に欠かせない要素です。加えて、多職種の連携なしには成り立たないものです。医療機関のスタッフと在宅療養に係るスタッフが、円滑に情報交換や連携を図ることができることを目指します。

《委員》

居宅区分代表者(4名)、市介護保険係、地域包括支援センター(2か所)、小出病院看護部、小出病院地域医療連携室、在宅医療推進センター

互いの役割を理解することで良い関係を築けるのではないかと

退院を急ぐ必要がある時の連携ルールがあると良いかと

家族が、現状と今後のことを受けとめられるようにしてほしい

在宅医療推進センターからお知らせとお願いです

皆さまに、研修会のご案内等いろいろなお知らせをする際、年末からメールを利用させていただいております。「メールが届いていない。」「添付ファイルが開けない。」等不具合はないでしょうか。

昨年12月17日付で、全関係機関の長様宛てに「医師への『連絡票』利用について」を送信しました。お手数ですが、ご確認をお願いします。

多職種連携検討会を開催します！

日時：2月25日(月)19時～

場所：小出ボランティアセンター

対象：在宅医療・介護に関わる機関の職員さま

内容：事例をとおして患者・家族の意思決定を支える多職種の役割を考える

ねらい：多職種間の何でも聞ける関係づくり
仕組みやお互いの役割を理解する

7/25に開催した「医師等多職種連携懇談会」パート2と位置付けています。ふるってご参加ください。

医師への連絡に用いる共通様式 使用開始！

要点を
簡潔に！

医師に、利用者に関する連絡・相談を行う際に利用します。積極的に活用し、医師との連携を深めましょう。



きちんと伝わっていますか？
返信ありがとうございます。
ございます。

医師は情報を待っている



在宅医療推進センターより

使い勝手はいかがですか。
修正点がありましたらお知らせください。